

善因善果

令和5年度 朝礼 (7/4) 校長の話

おはようございます。7月になりました。これからは1学期を振り返って良かった点を確認したり、2学期に向けて改善したほうがいい点を考えたりする時期です。自分自身の勉強のことであつたり、生活面のことであつたり、また、クラス全体としての取組についてだったり、さまざまな活動を振り返ってどのように過ごせたかを確認してください。それが必ず2学期にいかせると思います。

そして、あと3週間で夏休み。いろいろな計画を立てている人も、まだこれからという人もいるのではないのでしょうか。そこで、夏休みを迎えるにあたって、皆さんに覚えてもらいたい言葉を贈ります。それは「善因善果」という言葉です。こう書きます。(掲示)

よい「原因」は、よい「結果」を生むという意味です。

仏教には「因果応報」という言葉があります。聞いたことがあるでしょうか。どんなものにも原因と結果があるということです。たとえば、トマトの種を植えればやがてトマトの実がなります。トマトの種を植えて、かぼちゃの実がなることは絶対にありません。つまり、種を「原因」と考えると、ある「原因」にはそれとペアになって、必ず決まった「結果」が起こる、というのが自然界の法則だということです。小さな種の中にはすでに、その結果が入っているというわけです。

たとえば、おなかを出したまま寝てしまい、翌日、風邪をひいてしまったとします。風邪をひいた原因は「おなかを出したまま寝てしまった」ことです。悪い原因を作ってしまったから、風邪という悪い結果が起こってしまいました。当然のことです。

逆に、良い原因をつくったらどうなるでしょう。当然、良い結果になります。たとえば、あるスポーツで優勝したチームがあるとします。それはたまたま優勝したのではなく、やはり優勝するだけの良い原因をいっぱいやってきたからだと言えます。たとえば、どのチームより走り込みをたくさんしたとか、どのチームもしていなかった技術を開発したとか、何らかの原因があるから、優勝という良い結果を手に入れたのではないのでしょうか。

良い結果を手にしたかったら、良い原因をつくったらいい、これが「善因善果」ということです。さて、夏休みは、この「良い原因」をつくるのに最適な時期だと思います。良い成績をとりたかったら、夏休みによい原因、つまり、成績があがるような勉強をたくさんすればいいのです。体力を上げたかったら、やはりしっかりと鍛え、よい原因となることを増やせばいいのです。逆に、だらだらと目標もなく過ごしてしまえば、それが原因となって、悪い結果ばかりが後で起こります。「善因善果」ではなく

「悪因悪果」ですね。

夏休みにはぜひ、良い原因となることに精を出して、将来、良い結果を手にしてほしいと思っています。決して悪因悪果にならぬよう、がんばってください。

さて、夏休みに向けもう一つ、皆さんにおすすめするのは「ボランティア活動」です。これまでも、たとえば地域の清掃活動に参加したとか、部活動で、地域行事に発表したとか、さまざまなボランティア活動をしてきた人も少なくないと思います。そこで、せっかくなので、校長先生から、ボランティア活動をした人に「ボランティア活動証明書」を発行したいと思っています。こういうものです。(見せる)これは皆さんを励ます気持ちを伝えるためと、それから皆さんの活動をしっかりと記録に残し、その功績を讃えるために発行するものです。ボランティア活動をしたという人は、ぜひ、校長先生に言いに来てください。なお、生徒会活動など大勢でボランティア活動をした場合は、先生の方でもうメンバーがわかっていますから、言いに来なくても大丈夫です。

さっそく調布市ではサマーボランティア募集の冊子が出ていますので、各教室にあると思いますから、のぞいてみてください。いろんな面白そうな活動があります。また、緑ヶ丘小の夏まつりの、中学生ボランティアを10名募集していますので、興味のある人は申し込んでみてください。

ボランティア活動も「善因善果」、人に奉仕したというよい原因は、何らかのよい結果を必ずもたらしてくれるはずです。皆さんの積極的な活動を期待します。先生の話は以上です。